

## 《高校生議会特集》



当日の録画中継はこちら



昨年12月16日に「広尾地域学」高校生議会」を開催。今回は広尾高校第3学年が5つの班に分かれて町に対する質問や意見を考え、各班の代表者10名が一般質問形式で町長に問いました。そのほかの生徒は議会の緊張した空気の中で傍聴しました。また、議事進行を行う議長を高校生の徳永玄輝さんが務めました。ここでは、当日の一般質問の内容を抜粋、要約して掲載しています。

### 質問

本町は若者の意見を取り入れる機会が市町村と比べて少ないと感じる。実際に高校生が参加している本町の取組を調べると、「広尾町まちづくり推進総合計画」を決める際のワークショップ1回のみであった。これからの「まち」を担っていく若者の意見を取り入れる場として、岡山県高梁市の「地域みらい共創課」のような環境を広尾町役場にも作ってみてはどうか。また、地域振興に関する会議等のメンバーとして、高校生を参加させるのはどうか。

1班

たなかひびき 田中音輝議員・ おのづかまなる 小野塚愛琉議員

## 若者の意見を反映する仕組みについて

### 答弁

町民の方々が意見やアイデアを取り入れる取組は様々あるが、単発的なものが多く、広がりや欠けていることは否めない。

高校生が行政とともにまちづくりを行っていくために生き生きと活動することは、高校の魅力向上にもつながると考えられるため、今年度から配置している魅力向上推進コーディネーターとも連携し、高校生の皆さんが、主体的にまちづくりに関わる仕組みをつくってきたい。また、高校生の意見を町政に反映させるための具体的な案はまだないが、若い世代の意見を町政に反映していくための参加方法等も協議し、これからの計画の中に反映させていく考えである。



2班

すえながあいいり 小堀みなみ議員  
末永愛琳議員

## 自然を守り 景観を整えるための まちづくりについて

皆さんにごみ拾いに協力してもらうため、拾ったごみの重さ等によって景品をプレゼントするなど、楽しくまちづくりをしていけたら良いと考えるが、町長の考えを伺う。

### 答弁

本町では「ルート336花壇づくり事業」を実施しており、延べ400人を超える町民の皆さんに参加いただいている。

**質問** 本町では毎年、花壇整備が実施され、町内会やボランティアの方々の参加によって成り立っているが、参加者は高齢の方が多く、中高生や若者の参加が少ないのが現状であり、年々参加者が減少し、人手不足によって植えられる花が少なくなったと感ずる。

小中高生の授業の時間を使用し、花壇整備を行うことで若者の広尾町への意識が変わり、景観が良くなると考える。また、海の周りにごみが落ちていないことで、自然を守る町に見えなくなってしまうことが本町の課題と感ずる。そこで、町民の

事業の案内は町内会を通じて行っており、高校生の方々には届きづらいかもしれない。授業時間の活用は学校の教育課程との兼ね合いがあるため、学校を通じてお知らせしていただくなど現状の枠組みの中で取り組むを実施していきたい。

海洋ごみについては「ふるさとクリーン作戦」を毎年実施しており、プレゼントについては、例えば商工協同組合が新たに手がけた地域ポイントシステム「サプリ」の機能を活用するなど、今後の参考とさせていただきます。



3班

あらきざらん めぐろいぶき  
荒木沙藍議員・目黒偉武亀議員

## 本町の空き家問題 について

下が大きな社会問題になっている。要因の一つとして、学校の体育授業や部活動以外の運動の機会と場所が減少しているためと言われているが、本町にある空き家や空き店舗を「こどもが集い、運動できる場所」として再利用するのはどうか。

### 答弁

本町も人口減少に伴い、空き家や空き店舗が増加傾向にある。現在把握している空き家・空き店舗の数は192件となっており、町では令和2年度から空き家を壊す費用の5分の4を補助する事業を実施している。

**質問** 近年、全国的に人口減少や少子高齢化が進んでおり、空き家が年々増加し、老朽化による損壊や倒壊の危険性や景観の阻害など大きな社会問題となっている。空き家等が点在している町の景観は「活気がなく寂れた町」との印象を与え、更なる人口減少に繋がるのではないかと危惧している。そこで次の点について伺う。

1. 本町の空き家・空き店舗の状況は。また、危険性のある建物に対し、どのような対策を行っているか。
2. まだ活用できる建物の利活用についての考えは。
3. 現在、こどもの体力低

空き家の利活用については、「空き家バンク制度」を進めており、空き店舗については民間活力も活用し進めていきたいと考えている。

こどもの集う場所としての空き家・空き店舗の再利用は非常に良いアイデアだと思うが、所有者の意向などを十分に調査した上で検討を進めていく必要があると考えている。

4班

いつかいちれん 五日市蓮議員・の だあやと 野田彪斗議員

## バイオマス発電 について

### 質問

近年、地球温暖化の進行とそれに伴う異常気象や自然災害の頻発が懸念されており、私たちはカーボンニュートラルとそれによる地球温暖化対策を目指す必要がある。

そこで、地域資源を活用したバイオマス発電に注目したい。本町の乳牛は約1万2300頭であり、1頭当たり1年での糞尿は16・6トンであることから、計約20・5万トンの糞尿が利用可能である。このことから、本町はバイオマス発電に適していると考えられる。よって、持続可能な社会の実現を達成できる有効な手段であると考えるが、町長の考えを伺う。

### 答弁

本町では、令和6年6月に「広尾町ゼロカーボンシティ宣言」を表明し、令和7年3月には「広尾町地球温暖化対策実行計画（区域施策編）」を策定した。

平成29年に、広尾町バイオガス推進協議会を設置して検討を進めていたが、様々な大きな課題が重なり、事業を断念した経緯がある。現状では、集中処理型のバイオマス発電施設の整備は考えていないが、バイオエネルギーの活用については今後も関係機関と連携し、調査研究していきたい。地球温暖化対策について、バイオマス発電だけでなく地球温暖化対策全体に対して、引き続き普及啓発等を行っていききたい。

### バイオマス発電とは

…動植物由来の有機資源（バイオマス）を燃料として電気を作る発電方法。木くずや生ごみ、家畜の糞尿などが使用される。



5班 たなかあやね 田中絢祢議員・たかくこうた 高桑航太議員

## ・広尾高校の進学率の低下と 町の出生数の減少について ・町外に向けた広尾高校の 魅力発信について

### 質問

第6次広尾町まちづくり推進総合計画では、広尾高校の進学率の中間目標を70%としているが、現在は53・7%となっている。また、本町の出生数も年々減少傾向にある。このままだと広尾高校は募集停止や廃校等も懸念されると思うが、町長の考えを伺う。

また、広尾高校の入学者を増やすためには、町内に限らず町外にも積極的に目を向けた魅力発信を行う必要があると考えるが、現在行っている取組や、実施予

### 答弁

町としても、広尾高校の入学者減少による募集停止や廃校・統合を危惧しており、広尾高校存続対策協議会を設置し、町一丸となり取り組んでいく。

進学率の低下については、広尾高校サポートプラン14を魅力アップに向けた施策として取り組んでおり、出生数の低下対策については、出産祝い金の増額や保育料・給食費の無償化など様々な支援策を展開している。

広尾高校の魅力を町外へ発信する取組について、現在、広尾高校サポートプラン14のチラシを帯広市や南十勝各町村等に新聞折り込みをして周知しており、東京都荒川区を介して東京都でも配布を行っている。実施予定の取組については、全国発信できる制度があるため、検討していく。また、全国募集に向け、住居確保のため、下宿運営事業者へ空室家賃の助成を行っている。



## 高校訪問のようす

高校訪問では、堀田議長による講話や、高校生がグループで作成した質問内容の原案をもとに、一次質問、二次質問の内容を議員が助言しました。

## 高校生議会を終えて

※いただいた意見は抜粋して掲載しています。

### 議長 <sup>とくなが げんき</sup> 徳永 玄輝さん

私は議長として高校生議会を進行しましたが、一番高い席、そして特別感があり、とても緊張しました。実際に進行してみると、議長は様々な決定権があると感じました。本当に貴重な体験でした。



## 高校生議員

### 1班 <sup>たなか ひびき</sup> 田中 音輝さん

三次、四次質問と、次々に対話できる能力が必要だと感じた。そのためには相手の反応を予測し、事前の準備を怠らないことが大切。直接議会に参加できて、とてもいい人生経験になった。

### 2班 <sup>すえなが あいり</sup> 末永 愛琳さん

自分が議員となって前に立ち、質問するのが緊張しました。広尾町のことを考えて町長に質問する機会ができて、良い経験になりました。

### 3班 <sup>あらかき さらん</sup> 荒木 沙藍さん

私たちが18年間過ごしてきた広尾町に対する思いを言える場で、町長にいくつかの案を提案できてよかった。

### 4班 <sup>のだ あやと</sup> 野田 彪斗さん

初めは議会について詳しく知らなかったが、高校生議会を通し、議会について学ぶことができた。また、議員の方々と一緒に一般質問の内容や二次質問を考えていくうえで、言葉遣いや筋の通った質問を完成させることができた。

### 5班 <sup>たかくわ こうた</sup> 高桑 航太さん

一生に一度の貴重な経験ができたと同時に、一般質問に臨むうえでの議会側と行政側の苦勞を知ったことで、正直何をしているの？という今までの議会への印象を180度変えることができた。

## 傍聴者

### <sup>くどう しんた</sup> 工藤 慎太さん

あの場に立って二次、三次と質問していける議員さんはすごいと思った。高校生が直接町長に質問できる機会がもっとあるといいなと思った。

### <sup>あらかき りの</sup> 荒木 理乃さん

高校生議会に参加し、人生で数少ない経験をすることができました。意見を聞く側と出す側の両方の立場の難しさを実感しました。

### <sup>かわつ ゆうが</sup> 川津 悠駕さん

自分たちの考えを直接町長に伝えることができるのはとても貴重な機会であり、町としての考えを知ることができた。

### <sup>くぼた みか</sup> 窪田 光花さん

何を聞かれるかわからない状態で質問に答えていく町長はすごいと感じた。広尾町の取り組んでいることを知る努力をしようと思った。